

自分らしい生き方、応援します!

ソーレ・スコープ

第78号
2016.
OCTOBER



男女共同参画推進月間講演会

湯浅誠さんが語る「女性の貧困 男性の貧困」

特集 今こそ男性の働き方改革～パパを楽しもう～

暮らしにひとさじエッセンス「喫茶 やまちょう」

イラスト：ヒビノケイコさん
(4コママンガエッセイスト)

男女共同参画推進月間講演会

2016年6月4日(土) 13:30~15:30

女性の貧困、男性の貧困 ～私たちの求める生きやすい社会とは～



講師 ● 湯浅 誠さん

社会活動家・法政大学現代福祉学部教授

働いても、貧困

日本の貧困率は2012年のデータで16.1%です。その実態を年取でいうと、一人暮らしで120万円、4人世帯で200万円程度。それ以下の収入で生活している人が、全国で6人に1人いるということです。2006年の貧困率は15.7%なので、6年間で0.4ポイント増えたことになります。

この間の子どもの貧困率は14.2%から16.3%と2.1ポイント増えていて、全体の貧困と比べ5～6倍の勢いで増加しています。これは、かなりまずいことだと思いませんか。

子どもには収入がないので、子どもの貧困は子育て世帯の貧困です。0歳～17歳の子どもの親の大半は30～50代ですから、共働きかどうかは別にして、ほとんどの人たちが働いています。それなのに貧困が増えてきているのです。

その中でも、とりわけ厳しいのが母子家庭です。日本では結婚している3組に1組は離婚するので珍しいことではありませんが、女性が一人になると生活は厳しくなります。父子家庭でも大変な家庭はたくさんありますが、母子家庭はさらにきついいことが多く貧困率は5割を超えています。なぜで

しょうか。

「女性活躍」と言われていますが、それは「家事も育児も仕事もやる」ということです。できる人もたまにはいると思いますが普通の人にはできないので、女性の活躍は結構だけど「自分は置いていかれる」と感じる人が多かったです。でも、そう感じながらも、それをやっている人はいます。シングルマザーたちは家事も育児も全部やり、自分しかいないので稼ぎに出る。ただ子どものことがあるからフルタイムでは働けないので、非正規の仕事を掛け持ちしたりする。シングルマザーたちは、働いても働いても貧困から抜け出すのは困難です。

日本の貧困層の最大の特徴は、「働いている」ことです。子育て世帯の99.6%の親たちは働いているにもかかわらず、子どもの14.2%は貧困でした。シングルマザーの就業率は80%近くで、何十年間も世界のトップです。

「働いていれば貧困から抜けられるはず」と漠然と思っていませんでしたか。それは事実とは異なるのです。

「当たり前」は、当たり前なのか？

全国で「子ども食堂」の取り組みが広がっています。学習支援には学生が、食事提供には地域の人が、できることを生かして活動しています。「自分は大したことはできない」と言われる人もいますが、そんなことはありません。大事なのは、そこでいろんな価値観の人に出会うことなんです。

ある「子ども食堂」で、大人たちが鍋料理をつくって子どもたちと食べたときに、高校生の女の子が「みんなでお鍋をつつくって、本当にあるんだね」と言ったそうです。つまり、その子にはそれまで、その経験がなかったんです。そういう光景は、スーパーマンが空を飛ぶみたい、テレビの中で起こるフィクションだと思っていたわけです。それが、その子にとっては当たり前だった。当たり前だったから意識することなく、それまで誰にも話すことはなかったんです。そこにいた人たちは、ただ一緒に鍋を囲んでいただけで何も特別なことはやっていませんが、その子にとっては忘れられない一生の思い出になります。

育ってきた環境が違っていると、この高校生のように自分たちが想像もつかなかったようなことで驚いたり、喜んだり、悲しんだりするわけです。だからお金や特別な支援じゃなくても、そこに関わることで「いるだけ支援」となり、お互いに学ぶものがあるのです。

格差が拡大し固定化していくと、経済的な差が開くだけではなく、人生の経験が交わらないことになります。

例えば、私立の小学生の大半は同じような経済状態の子に囲まれて、中学受験をし、高校大学へ行き、当たり前のように就職し結婚していく。他方で、同級生の半数が辞めていく高校を出て、卒業した仲間の中で働いているのは自分だけということが当たり前の子がいるわけです。

環境によって早いうちから分離されると、あまりにも見え

ているものが異なり、結果として当たり前が違いすぎて、この二人の会話は成り立ちません。「お前は分かってない」「何を言っているんだ」と、相手の言っていることを否定してしまいます。意見が二極化し、分極化して進んでいくと社会は分裂していきます。経済格差が広がると政治的な意見も分かれ、分断されていくことは明らかです。これは一番怖れなくてはいけないことです。

生きやすい社会に向けて

生きやすさ、暮らしやすさをつくっていくことは、一朝一夕にはいかないと思います。生活が困窮している人と付き合ってきて思うのは、当事者の中には長年蓄積した「世の中は何もしてくれない」という感覚があるということです。だから「言ってくれればいいのに」と軽く言われると、そういう人には相談したくないという思いが先に立ってしまうんです。ですから共感力というか相手の置かれた状況を理解する力が必要になります。

貧困の問題は、女性男性を問わず、社会的に対応していく必要があります。この「社会的に」というのは、「私たち一人一人が」ということです。知るべきことを知って、さらにもっと知ろうとして、「自分事」にしてほしいと思います。

そのためには、人に話すことが一番です。人に話す質問され何か答えなくてはいけなくなり、だんだん自分でまじめに考えなくてはと思うようになります。そうすると何か行動する気になります。話すことで責任が出てきて、自分を追い込ませざるを得なくなるのです。ぜひ自分で自分を追い込んで、「自分事」にしてってください。そういう人が増えていくと、高知は一層暮らしやすく住みやすい町になるんじゃないかなと思います。皆さんのご活躍を期待しています。

(文責 公益財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団)

今こそ、男性の働き方改革 ～パパを楽しもう！～



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」は、仕事も生活も充実させるために、必要に応じて働き方や生活のスタイルを見直すことです。育児・介護、自己啓発、地域活動など、性別や年齢にかかわらず一人一人に自分が今大切にしたいことがあるはずです。

「もっと子どもと遊びたい!」「家族のために料理をしたい!」と思っても、なかなか難しいのが日本の現状です。男性の家事や育児が進まない原因の一つは、長時間労働にあります。特に子育て世代である30代男性は働き盛りと言われ、週60時間以上働く人が4人に1人と、家族と向き合う時間を持つのは難しい状況です。最近話題になることが多い男性の育児休暇については、制度は整っているものの職場の雰囲気それが許さず、男性の取得率はなかなか上昇しません。しかし、育児にかかわりたい男性は増えており、育児休暇は取らなくても、育児を目的とした有給休暇を取得する男性も少なくありません。

男性が家事・育児をすることで得られるメリットはたくさんあります。女性は妊娠出産を自分の身体で経験することで、母親としての自覚が生まれると言われます。しかし、男性の

中には子どもが産まれてすぐには、父親になったことの自覚を持ってない人もいます。子どもと触れ合う中で、子どもがニコッと笑ったときや「パパ」と呼ばれた瞬間に、男性は父親を実感すると言われていてます。そして育児にかかわればかわるほど、子どもに対して「かわいい、大事にしたい」という父親としての自覚が育まれ、子どもがいることの喜びを感じるようになるのです。

また、子どもとの関係はもちろん、家事・育児の大変さを体感することで妻とのパートナーシップがより強くなり、家事の役割分担等も柔軟になると言われています。夫婦が同じくらい家事・育児をすると、これまで女性が一人で担うことの多かった子育てへの負担感は大幅に軽くなります。

子どもにかかわる時間は、長い人生から見れば、ほんの一瞬です。育児休暇の取得は難しくても、せめて週1日はノー残業デーにして、子どもと笑顔で過ごす時間をつくりましょう。「家族も仕事も大切にする」そんな男性が増えると、長時間労働に対する考え方も働き方も変化していくのではないのでしょうか。

平成28年度ソーレいど事業「おとうさんのためのこどもたちの食・寝る・遊ぶが元気になる育児！～えがおのヒント教えます！～」を主催するあっぱはっは笑顔会の皆さんに、子育てにおける父親の役割について伺いました。

イクメンという言葉のイメージは、おむつ替えだったり、食事のお世話という母親の代役のイメージでとらえられがちですが、育児における父親の役割は、「父親だからこそ」できることにあります。

ぜひ積極的にやってほしいのは、外遊びや体を使った遊びです。多くの男性は女性より力もありますし、母親だと「危ない、汚れる」と子どもを止めてしまうような場面でも、父親は子ども目線で一緒になって遊びます。そうすることで、例えば泥水の中に入って遊んだり、五感をフルに使って遊ぶことができます。子どもは、それが楽しいのです。

母親には、ぜひ口を出さずに父親に任せてほしいですね。やはり子育てについては母親の方が主導権を持っていることが多いので、口を出されると父親は自分のやり方が間違っているのかと、だんだん手を出しづらくなってしまいます。

昔は、兄弟や親せき、地域も含めて、子どもたちはいろんな人と関わりながら、たくさんの刺激を受けて育ってき

ました。しかし核家族化が進んで、育児のほとんどを母親がこなす。今のような状況では、子どもたちが幼少期に受ける刺激は、母親からのものだけで単調になってしまいます。だからこそ、父親からの刺激は、遊びの面だけではなく食事の面でも子どもに強烈な刺激として記憶に残ります。

だから接する時間が母親と比べて少なくとも、子どもはちゃんと母親と父親の両方から大事にされているんだと思えるんです。こうした信頼関係を子どものうちに築けていると、思春期に子どもが一旦離れてしまっても、大人になってから親のところへまた戻ってくるんです。

一父親が自分の子育てに自信が持てる講座を実施中。ぜひご参加ください。



家庭での活躍、料理からスタート！👨‍🍳

「男の料理 やろう会」メンバー募集中

平成24年度にソーレが実施した「男性応援セミナー」参加者で結成されたグループ「男の料理 やろう会」。毎月1回、男性料理研究家を招き、男ばかりでオムライスやサバ寿司などバラエティーに富んだ料理に楽しく挑戦しています。簡単レシピなので自宅でも再現できます。食欲の秋、家族の「おいしい！」を目指して、料理を始めてみませんか。

◎申込・お問合せ先 090-4502-6770(竹崎)

カジダン&キッズシェフの わくわくクッキング 「チキンロースト きのこソース」



鶏肉とおいしいソースで作る一品をメインに、クリスマスにも楽しめる本格的な料理に挑戦。プロのシェフが料理のコツを伝授します。初めての方も大歓迎！

日時 11月20日(日)10:00~13:00

講師 田中秀典(ダイニングキッチンReborn オーナーシェフ)

対象 男性保護者と小学生10組(先着順)

参加料 1組2,500円(材料費込)

申込 10月14日(金)9:00~電話にて

女性雇用者全体に占める非正規の割合 (2015年)

56.3%

労働法に関わる規制緩和などで、パートやアルバイト、契約社員、派遣社員といった非正規の職員・従業員は増え続け、その割合は1984年の15.3%から2015年には37.5%と2倍以上に増加しており、雇用者の約4割を占めています。雇用者に占める非正規の割合は、男性が2割程度であるのに対し、女性は56.3%と半数を超えています。

●不本意ながら非正規で働く女性

こうした背景には「家事や育児は女性の役割」といった意識にとらわれ、結婚や出産、子育てのために仕事を辞めた女性が多く、また子どもの成長に合わせて再び正規雇用として働きたいという意欲を持ちながらも子育てとの両立が難しく、パートなどの短時間勤務を選択するしかない状況があります。

さらに1990年代後半からの度重なる不景気で正規雇用が減少したのに対し、労働者派遣法の改正に伴い派遣対象業務が拡大し、派遣社員や有期の契約社員といった非正規雇用は増加しました。このため、新卒者の中にも正規雇用として働くことを希望しながらも、その機会がないまま非正規で働く女性が急増しています。

●賃金格差

正規雇用と非正規雇用の格差は特に賃金で顕著に表れ、厚生労働省の2015年賃金構造基本統計調査によると女性の正規雇用

非正規職員・従業員の割合の推移 (役員を除く)



資料：総務省統計局「労働力調査」より作成

の平均月給が25万9300円なのに対し、非正規雇用では18万1000円にとどまっています。さらに正規雇用は年齢が高くなるにつれて賃金も上昇しますが、非正規雇用は30代から横ばい状態です。

このことは女性の貧困にもつながっており、極めて深刻な社会問題となっています。結婚や出産を機に仕事を辞めた女性の中には、DV等の被害にあっても経済的に自立できないため、離婚できないといったケースや、離婚できたとしても収入が少なくワーキングプア（働く貧困層）になるケースがあります。

また女性の働き方に対する支援策は、専業主婦の再就職支援や正規雇用管理職登用に集中し、そもそも「夫が会社で働き、妻は家事・育児」といったモデルで制度化された社会保障から外れる非正規独身女性への支援策は乏しい状況です。

●多様な働き方の実現

長時間労働等の問題も踏まえ、正規雇用のまま家庭の状況に合わせて時短勤務が選択できるなど、柔軟で「多様な働き方」が求められています。また、安心して働くための同一労働同一賃金についても検討されています。

働く人が希望に応じ、自分らしい選択ができる社会を実現するためにも、一人一人が自分にとっての働く意味や働き方について、真剣に考えてみる必要があるのかもしれませんが。

暮らしにひとさじ エッセンス



喫茶 やまちょう

〒780-0870

高知市本町1丁目3-3

☎088-873-1718

駐車場：なし

営業時間：

(1F 喫茶)

月～木：8時～19時

金・土・祝前日：9時半～夜1時半

日曜日：8時～15時

(キッズルーム)

月～木：9時半～19時

金・土・祝前日：8時～22時

日曜日：9時半～15時

※事前にご予約ください。

(6組利用可)

詳しいお店の情報はFacebookで。

佐竹 恵美さん (喫茶 やまちょう)

小さい子どもと一緒に街へ出かけた時、授乳やおむつ替えの場所を探して困った事はありませんか？ 高知市の中央公園から南に徒歩1分ほどにある「喫茶やまちょう」は1階に喫茶、2・3階に無料で利用できるキッズルームがあるお店です。

子育て中に授乳やおむつ替えのできる場所を探すのにひと苦労した経験から、「子どもと一緒に安心して出かけられる場所を作りたい」という思いで、今年1月にオープンしました。

専業主婦のときは「家にいるなら家事・育児を完璧にしなくてはいけない」と、精神的にしんどさを感じていました。その後働き始めると「もっといろんな刺激を受けたい」という気持ちが大きくなり、思い切って、行動に移しました。

「家族のサポートがあるからこそ、自分は働くことができる」と実感する毎日です。だからこそそれを当たり前と思わず「ありがとう」の気持ちを伝えることを大事にしています。

「この店を始めて驚いたのは、アレルギーを持っている子どもが多いこと。いつも食材を気にしなければならない家族の大変さや、1人だけ違うメニューを食べる子どもを見ると、材料は違っても同じようなものを提供できるようにしたいと思っています。ここを訪れた人が育児のストレスを発散して気持ちを切り替え、明日への一歩につなげられる場所になったらうれしいです。」

自らの体験から出発した佐竹さん、同じ悩みを抱える人を元気にするための挑戦が続きます。



山長みそ

母の作るおかず味噌を気に入った高知市大津にあるだるま味噌株式会社の協力で商品化。1番人気の「じゃこしそ」の他5種類があり、ランチではつけ放題となっています。



キッズルーム

授乳や、おむつ替えができるのはもちろん、子どもを遊ばせながらゆっくりと食事を楽しめるなど、気兼ねなく安心して利用できます。

講座のご案内

DV防止啓発講演会

「絶望から生きる」 無料

～歌人鳥居さんが暴力について語る～

親もなく過酷な環境の中で絶望と向きあいながらも独学で文字を覚え、短歌の中に居場所を見つけて、生きる力を取り戻した鳥居さんのお話を伺います。

日時 11月5日(土)13:30～15:00(13:00開場)
講師 鳥居(セーラー服の歌人)
定員 100名(予約優先)
申込 受付中。電話またはホームページにて
主催 高知地方法務局、高知県人権擁護委員連合会、高知県女性保護対策協議会、(公財)こうち男女共同参画社会づくり財団



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

女性に対する暴力をなくす運動(毎年11月12日～25日)

夫・パートナーからの暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等女性に対する暴力は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。しかし、現実には女性が暴力を受けても、一人で悩み、相談できない状況があります。暴力に悩む女性を生み出さない、暴力を許さない社会にするために、女性に対する暴力の問題について考える機会として、この運動を毎年行っています。

- このほかにもさまざまな講座を開催しています。詳しくは、ソーレホームページ・セミナーガイド(4月、10月発行)をご覧ください。
- お申し込み・お問い合わせはお電話でソーレ **(088) 873-9100** まで

施設利用のご案内



- 貸室利用時間
9:00～21:00
(土・日・月曜日9:00～17:00)
- 休館日
第2水曜日・祝日・(年末年始)12月29日～1月3日
- 図書・情報資料室
9:00～20:00(土・日・月曜日9:00～17:00)
※ただし図書利用カード発行及び再発行の受付は、17:00まで
- 相談室
9:00～12:00、13:00～17:00
(専用電話/088-873-9555)
※第2水曜日、祝日、12月29日～1月3日は休室です

- アクセス
電車…「旭町3丁目」下車100m
バス…「旭町3丁目」下車50～200m
JR…「旭駅」下車400m



駐車スペースが少ないため公共交通機関をご利用のうえ、ご来館ください。

無料 参加費無料です  **無料** 託児付(6カ月～就学前児童・予約制)

コミュニケーション講座

自分らしさを大切にしながら 自信を持って生きていくために ～アサーティブコミュニケーション講座～

職場や地域で、女性がよりいきいきと能力を發揮していくために、自分も相手も尊重しストレスをためないアサーティブなコミュニケーションの方法を体験しながら学ぶ講座です!

日時 11月12日(土)10:00～16:00
11月19日(土)10:00～16:00(全2回)
講師 谷水美香(特定非営利活動法人アサーティブジャパン 認定講師)
参加料 2,000円+テキスト代1,000円 ※初回にお支払ください。
対象・定員 女性30名(先着順)
申込 10月3日(月)9:00～電話にて

男女共同参画講座 無料

男女共同参画に関する理解を深めるために、「家族」をテーマに講座を実施します。

日時 ①12月4日(日)13:30～16:30
②12月18日(日)13:30～16:30
講演テーマ ①イマドキ家族の家庭経営学入門～これまでの家族・これからの家族～
②多様化する家族のカタチ～法と現実のはざままで～
講師 ①森田美佐(高知大学教育学部准教授)
②二宮周平(立命館大学法学部教授)
対象・定員 各回30名(先着順)
申込 11月1日(火)9:00～電話またはホームページにて

ソーレ・メールマガジン 「FROMソーレ」

講座情報を定期的にお届けします。
購読は無料!



登録はこちらから!
規約に同意して登録を選択後、空メールを送ってください。

発行

公益財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団 Tel.088-873-9100 Fax.088-873-9292

〒780-0935 高知市旭町3丁目115番地 ホームページ <http://www.sole-kochi.or.jp> ・Eメール sole@sole-kochi.or.jp

発行日

平成28年10月10日